

第7回小樽市歴史的風致維持向上協議会 会議録

<日時・場所>

日時：令和7年3月26日（水）14時～16時30分

場所：小樽市建設部庁舎3階 研修室

<会議次第>

1 開 会

2 議 事

（1）報告事項

- ① 小樽市歴史的風致維持向上計画の策定について . . . 資料1
・計画策定スケジュール（案）

（2）協議事項

- ・小樽市歴史的風致維持向上計画の素案について . . . 資料2, 3

3 その他

4 閉 会

<協議会委員>

出席委員：駒木会長、小林副会長、舟山副会長、清水委員、高橋委員、田川委員、
福島委員、山本委員、五十嵐オブザーバー

欠席委員：井上委員、杉本委員、田中委員、橋本委員、平松委員

<委員以外の出席者>

事務局：建設部 山岸次長、新幹線・まちづくり推進室 廣瀬主幹、日下主査、
伊藤主任

教育部 生涯学習課 山澤課長、山戸主任

産業港湾部 観光振興室 津田主幹

<会議録（要旨）>

2 議事

(1)報告事項 小樽市歴史的風致維持向上計画の策定について

- ・事務局から、資料1より計画策定スケジュールについて説明。

〔委員意見〕

意見無し

(1)協議事項 小樽市歴史的風致維持向上計画の素案について

- ・事務局から、資料2、資料3より歴史的風致維持向上計画の序章、第1章～第8章、参考資料までを説明。

〔委員意見〕

●序章

- ・意見無し

●第1章

- ・「舁荷役のための運河が整備された」だと少し省略しすぎだと感じる。「舁荷役のための導入路として運河が整備された」と「導入路」を挟んだ方が良い（A委員）
- ・松前神楽について、「各地の田楽や能の影響を受けて」という部分の出典がわからない。引用文献があればこれでもよいが、田楽は北海道ではなじみがないので、『松前神楽は、「釜湯立」などの神事を伴う松前藩の城内神事』、というふうに単純にしたほうが良いと思う（B委員）

●第2章

1 海に関わる営みにみる歴史的風致

- ・「切り声」のような専門的な単語は、意味を知らない人が多いと考える。いきなり文中に登場させるのではなく、最初は説明を加えた方が良い。（B委員）

3 祭りの賑わいにみる歴史的風致

- ・榎里神社のコラムについて、現段階の記載内容では足りない部分がある。時代の移り変わりが棟札からうかがえるため、確認していただきたい。（B委員）

4 景勝地の行楽にみる歴史的風致

- ・天狗山スキー場の50年根拠について、スキー場にするときに傾斜地をある程度均して築造していると考えれば土木構造物といえるのではないか。（A委員）

●第3章

・(4)の歴史文化資源に関わる資料の整理及び情報発信について、海外からの観光客が多く入ってきているが、博物館の展示やパンフレットなどが日本語の表記しかなく、不親切だと感じる。このあたりの見直しも盛り込めないだろうか。(C委員)

●第5章

1(3)文化財の保存・活用を行うための施設に関する方針

・施設の記載の順番について、総合博物館、重要文化財、美術館・文学館・図書館、となっているが、市の施設である博物館、美術館・文学館・図書館を最初に提示し、そのあとにその他重要文化財について記載する方が良いと考える。(D委員)

2(1)文化財の保存・活用の現況と今後の具体的な計画

・重点区域内にある文化財について、ここでいう文化財は建築物を指していると考えますが、タイトル自体に「建造物」と記載されていないため、史跡も入るのではないかと。(D委員)

・建築物が中心となっており、無形民俗文化財については触れられていないが、どのように考えているのか。(B委員)

●第6章

(1)-2旧寿原邸活用推進事業

・「修復するなど、コストダウンを図りながら、建物等の保全に努める」とあるが、旧寿原邸はすでに老朽化が進んでおり、今までもコストダウンしながら修復してきているため、建物が心配である。「コストダウン」をほかの言葉で表現できないか検討してほしい。(D委員)

(4)-②小樽に関する教育普及事業

・事業位置に博物館しか入っていないが、文学館や美術館、図書館も様々な活動を行っている。このあたりの施設も組み込むことで、博物館以外の施設にも計画の恩恵を受けられるよう考慮していただきたい。(D委員)

●第7章

・重点区域を示す赤いラインは、道路のセンターで引いているところが多いとのことだったが、機械的に分けるのではなく、その通りの役割等を考慮して区切った方が良い。(B委員)

- ・重点区域内の建造物の転売を防ぐ何らかの規則を設けられないか。(E 委員)

●第8章

- ・建物が3軒並んでいると一つの場合として見えるという3軒効果というものがある。価値づけについて、建物単体の価値だけでなく、通り、場所としての価値という考え方もあると考える。小樽運河沿いの未指定の倉庫などで当てはまるのではないか。(A 委員)

●資料編

- ・朝里遺産の会の活動報告である『みんなで探そう町会遺産』は令和2年度分しか掲載されていないが、毎年刊行されるものなので、手元にあるものは載せた方が良いのではないか。また、越崎宗一氏の著書、駒木会長から提供のあった住吉神社の舞殿のレポートなど、掲載すべき資料を精査してほしい。(B 委員)

●全体

- ・風致と人との関わりについて述べている箇所があるが、「地元住民」「見物客」など、誰の気持ちを述べているかわからない箇所がある。対象者を整理すべき。(B 委員)

- ・未指定の歴史的建造物について、「必要に応じて調査」という記載があるが、どういう必要か、誰にとっての必要かわからない。行政の考え方を明確にした方が良い。(F 委員)